

# 第34回 日本女性医学学会学術集会 ランチョンセミナー7



座長 古山 将康 先生

(大阪市立大学大学院医学研究科女性生涯医学講座)



演題名

## 『GSM、見ているようで 見えていなかった古くて新しい疾患』

演者 二宮 典子 先生

(女性医療クリニック LUNA 心斎橋 / 大阪市立大学大学院医学研究科泌尿器病態学)

ご経歴

(女性医療クリニック LUNA 心斎橋 院長 / 大阪市立大学大学院医学研究科泌尿器病態学)

香川医大卒。大阪市立大学医学部泌尿器科入局。泌尿器科専門医。女性の排尿トラブルのニーズに応えるべく女性泌尿器科・骨盤底疾患について研鑽。女性の全身のさまざまなトラブルに対応するために東洋医学の研究も行っている。

2014年に北米閉経学会(NAMS)とthe International Society for the Study of Women's Sexual Health (ISSWSH)が従来の萎縮性膣炎なども包括する概念として、更年期以降に出現する尿路・性器・膣の不快症状をGenitourinary syndrome of menopause (GSM)として提唱しました。ISSWSHでは毎年多くのGSM関連の発表がなされ、欧米では治療薬の承認も進んでいます。

立ち遅れること5年、2019年4月、日本女性医学学会によって、ようやくGSMの日本語訳が『閉経関連泌尿生殖器症候群』と決定しましたが、まだ十分に認知されていません。毎日何人もの外陰膣所見をとっているはずの産科婦人科専門医でさえ、GSMを理解しているとは言い難い状態です。いえ、むしろ毎日多くを診察しているが故に、『今までの萎縮性膣炎ではダメなの?』『GSMなんて知らなくても、別に困らないよ。』周囲の医師からはこのような声も聞かれます。

講演では、日常に患者さんから聞かれる主訴の中で、GSMに関連している可能性のあるものをどのように篩い分けし、治療を行っていくかをご紹介します。また、GSMに特徴的所見の中でも特に重要なもの、見逃してはいけない病態についてご紹介させていただきます。講演を聞いていただくだけで、明日からの診察の目が変わります。聞いて損なし! 目からウロコ! 間違いなしです。

2019

11/3 (日祝)

12:20 ~ 13:20

ヒルトン福岡シーホーク 第3会場 (ナビスA)

ランチョンセミナーはチケット制となります。

1F「チケット配布デスク」にてセミナー当日にお受け取りの上、会場にお越しください。